

地震でのつながり

なごさ小学校 五年一組 北尾 祥也

一九九五年にあ。た阪神淡路大震災のこと
がいつも頭からはなれませんか。

それはお母さんのおなかの中に行ったときの
ことで、北区にいたときの話です。

マグニチュード二・三の地震だ。ただ
と腹痛で動くのがとてもつらか。たそうです。

それなのにお母さんはおなかの中の僕を一
生懸命に守。てくれたことにとっても感謝して

います。

そのお母さんにしてもらった震災の時の話
を思い出して岸本さんの話を聞いていると地

震はともかくて大変だ。ただあなたなと思
いました。

しかしその地震は人と人とのつながりを
く。てくれた大切な物だと思えます。

それは、家がつぶれて水が出ない、ガスも
でない、電気もつかないという中で協力でき
たからです。

しかもそこは町中がパニックになって
いる状態です。

僕はこのような状態の中でもし、かりと生
きぬりてきた人はとても心が豊かで勇気のあ
るのだなと思いました。

次いつ地震がくるのかは分からな
い加その
ときのためにひなんぶくろなどを用意して
い
つ地震がきてき大じょう夫なよこにいまのう
ちにしておきたりと思ひます。

またちがう所で地震がおきたらぼ金活動に

協力したりボランティアに参加してみたいと
思ひました。

人々が困っているところを助けてあげるこ
とが本当の親切だと今日、岸本さんの話を聞
いて思ひました。